



平成二〇年度地域国際化協会職員 海外研修について

(財)自治体国際化協会支援協力部多文化共生課

地域国際化協会職員海外研修は、地域の国際交流を推進する中核的民間交流組織である全国の地域国際化協会が、相互連携、情報交換を通して、地域レベルの国際化の推進を図るために設置した地域国際化協会連絡協議会が主催する研修です。今年度は、昨年に引き続きオーストラリアを訪問しました。この研修の目的は、日ごろ多文化共生をはじめとする地域の国際化に関する業務に携わる地域国際化協会の職員が海外の団体を訪問し、活動現場の視察や関係者との意見交換などをしながら見識を深めることにあり、今回は四協会四人の職員が参加しました。オーストラリアは多文化主義政策を掲げ、連邦政府、州政府、地方自治体から、NPO等の民間組織までが一丸となつて、世界各地からの移民・難民を国家戦略として受け入れている国です。そこで、オーストラリアで多文化共生のための施策を実施しているさまざまな団体を訪問し、日本の地域における外国人住民に対する支援施策の推進に資するよう、活動内容

や関係団体との連携について学びました。特に今回は、「医療と教育」をテーマとし、医療通訳の派遣を実施している州政府機関

や移民の児童・生徒を多く受け入れている公立学校を訪問しました。

平成20年度地域国際化協会職員海外研修 日程表

	月日	始	終	
1日目	11/30 (日)	21:30	7:10	成田空港→ブリスベン空港
2日目	12/1 (月)	9:15	11:45	ブリスベン空港→シドニー空港
		14:00	15:00	犯罪博物館視察
3日目	12/2 (火)	10:00	12:00	Community Relations Commission for a multicultural NSW (CRC)
		14:00	16:00	Canterbury-Bankstown Migrant Resource Center (CBMRC)
4日目	12/3 (水)	10:00	12:00	Sydney South West Area Health Service (SSWAHS)
		14:30	15:30	Casula Powerhouse (Liverpool Migration History Project) 視察
5日目	12/4 (木)	9:30	11:30	Tempe Public School
		14:00	16:00	Ashfield Municipal Council
		17:00	18:00	医療通訳者との意見交換会
6日目	12/5 (金)	10:00	12:00	Department of Education and Training (DET) , Multicultural Program Unit
		14:00	16:00	NSW Multicultural Health Communication Service (MHCS)
7日目	12/6 (土)	9:00		JCS日本語学校シドニー校
		19:00		ホテル出発
		22:05		シドニー空港→成田空港
8日目	12/7 (日)	6:10		成田空港着・解散

研修では、まずオーストラリア連邦政府の概要や日豪関係、オーストラリアにおける多文化主義の変遷を知る見地から、(財)自治体国際化協会シドニー事務所を訪問し、池田所長よりオーストラリアの概要についてお話を伺いました。二日目は、多文化主義施策に関わる州政府機関 Community Relations Commission for a multicultural NSW (CRC) に伺い、シドニー市のあるニューサウスウェールズ(NSW)州における多文化主義施策を伺い、その後は、非政府組織(NGO) Canterbury-Bankstown Migrant Resource Centre (CBMRC) において、移民への定住支援に関わるサービス提供についてお話を伺いました。

三日目は、医療通訳派遣を業務としている政府機関である Sydney South West Area Health Service (SSWAHS) を訪問しました。ここでは病院や患者からの要請を受け医療通訳派遣を行ったり、医療通訳者の養成を実施しています。登録されている常勤通訳者は一〇〇人、臨時雇用の通訳者は四〇〇人以上であり、見学させていただいたコールセンターは二四時間体制で要請を受け付け、対応していました。オペレーターは電子システムにより、どの通訳者が派遣可能か即時に分かる仕組みになっており、その先進的なシステムには、参加者の皆さんも驚いていました。

四日目には、英語以外の言語環境の家庭で育つ児童が通学者の約八〇%を占める公

立学校、Tempe Public School を訪問しました。ここでは、移民の保護者が積極的に学校活動にも参加されており、校内にはアボリジニアートをはじめとし、様々な文化に触れられる仕組みづくりがなされています。その後、住民の四〇%以上が海外生まれである自治体アッシュフィールド市を訪問しました。市長自らお出迎えいただき、市で実施している様々な多文化主義施策についてお話いただくなど温かい歓迎を受け、多様な人々が住む社会の寛容な気持ちを肌で感じることができました。その後は、英語を母語としない人々への医療・健康情報を多言語で提供する NSW Multicultural Health Communication Service (MHCS) や、日本語・日本文化教育に取り組む JCS 日本語学校を訪問し、それぞれの事業概要や運営方法、多文化共生への取り組みなど、限られた訪問時間内にも拘らず丁寧にご説明いただきました。実際の活動現場を見て、具体的な取り組みを知ることができ、大変有意義な研修となりました。

平成二〇年度地域国際化協会海外研修 参加者感想

外国人スタッフから見た 多文化共生社会づくり

(財)和歌山県国際交流協会 時 光

オーストラリアは長年移民政策を導入しており、連邦政府は責任をもって移民を受

け入れるに当たったの様々な環境整備に取り組んでいる。政府は多文化政策の方針を明確に定め、政府関係機関はその指令に従い、あらゆるバックグラウンドをもつ人へのサポートを具体化していく。移民たちがオーストラリアで安心して生活できるよう、一部のボランティアや意識の高い人の力に頼るのではなく、しっかりと社会システムで移民へのサービス提供やサポートができています。そのため、教育、医療、住宅、雇用、英語学習、市民権取得、日常生活などあらゆる方面においてあらゆるバックグラウンドをもつ人が、政府のシステムによってきめ細かいところまでフォローをしてもらえる。一方、私たちが住んでいる日本は労働力を求め、多くの外国人を受け入れている。これらの外国人は日本全国に存在し、日本人と同じように真面目に働き、地域の中で生活している。しかし、外国籍住民が安心して暮らせるための環境づくりができていないのが日本社会の現状だ。日本語が分からない、ビザがいつ切れるのか、様々な不安を抱えながらも日本で頑張ろうという気持ちを持って外国人が多いけれども、一住民としてな



↑(財)自治体国際化協会シドニー事務所にて



↑英語を母語としない移民に定住支援を行う非政府組織CBMRCにて。ここでは市民権取得のための支援や行政文書の作成支援等を行っている

なか認めてもらえないのが本当に残念だ。私自身も外国人であり、身をもって日本生活の大変さを痛感している

にも拘らず、外国籍住民の厳しい現状をすぐに変えられないのがとても心苦しく思う。私だけではなく、おそらく今回の研修に参加した皆さんもショックを受けただろう。しかし、視点を変えて考えればオーストラリアの先進事例を自分の目で確かめたことにより、日本人も外国人も住みやすい環境、それを支える社会システムを日本で作るの

は、長い時間がかかるかもしれないが、夢ではないと私は確信した。

今回の研修先でたくさんの方のネイティブスタッフたちに出会うことができた。彼らはいろんなバックグラウンドをもちながらも、政府の関係機関をはじめ、多文化コミュニケーション団体、ボランティアなど様々なポジションで活躍している。職員同士が言語、文化背景が違っていても互いに寄り添って共に働いている姿に感動を覚え、羨ましいと思った。日本の場合、地域の多文化共生推進を担っている関係機関は外国人スタッフがとて少ないように感じており、日本人だ

けで頑張っているという印象が強い。日本人の努力だけでは本当の意味での多文化共生社会を築くことができないと思う。外国人が日本人と対等な関係で話し合い、力を合わせてはじめて、多文化共生社会につながっていくと思う。そのため、関係者の日本人には、まわりの外国人の意見をもっと聞き、日頃の業務に反映させてもらいたいし、ネイティブ人材の発掘や育成、職員としての採用なども考えてもらいたい。私自身も一人のネイティブスタッフとして外国籍住民の声を多くの方に伝え、パイプ役になれるよう努力を続けたいと思う。

平成二〇年度地域国際化協会職員海外研修に参加して

(財)福岡国際交流協会 久保 佳子

私にとって、今回が二度目の地域国際化協会職員海外研修である。前回は、福岡国際交流協会事業の重点が交流から協力へとシフトしていた時期に、カンボジアで様々な国際協力の現場を視察させていただいた。そして今回は、在住外国人の増加に伴いその支援体制整備の重要性が増す中、多文化共生の先進地であるオーストラリアを訪ねるといふタイムリーな企画に参加することが出来て大変幸運であった。

一口に在住外国人と言っても、その立場(意味合い)は日本とオーストラリアとは大きく異なり、従って彼らへの対応にも大きな隔たりがあるため、オーストラリアの制

度などをそのまま導入することは不可能である。この点は、事前準備の中でもかなり明白であった。しかし、その様な違いを越えて、日本での我々の仕事にも参考になる有益な情報を得られればと期待しつつ日本を後にした。

現地では、六日間の滞在中、医療、教育関連を中心に一〇カ所を訪れ、多くのことを学んだが、行く先々で常に感じたのはそこで働く人々の「ぶれ」のなさであった。その背景には、多文化主義が国家の最も重要な政策として存在していることがあると思っただ。つまり、それぞれ持ち場は違っても、彼らは皆、全ての人々の多様性(宗教・人種・言語などの違い)を認めつつ、平等で調和の取れた社会こそが国力の源であるとの基本理念の下、そのような社会を実現すると言う共通の目標に向かって、自分たちのなすべき事を行っているのであった。我が国でも国際化が叫ばれて久しいが、国として外国人をどのような存在として受け入れていくのかも未だ明確ではない。中、それでも現実的に地域社会の中で増え続けている彼らと向き合っている地域



↑テンピ公立学校での授業風景。英語学習が必要な子どもに対し、第二言語として英語を学ぶESLプログラムを行っている様子



↑テンビ小学校の校内の風景。中国文化を学ぶ授業で、生徒たちが作った京剧のマスク

国際化協会の職員として、財政的な裏付けを伴う明確な政策（指針）の下、仕事に打ち込んでいる彼らの姿を、正

言う考えがまかり通っている日本の状況と比べ、国として厳しい基準を設け、仕事の内容ごとにふさわしい通訳者を活用するシステムが確立されているオーストラリア。日本においても、一日も早い通訳の地位の確立、レベルの向上が望まれるが、それについてはやはり国家的な取り組みが必要ではないかと感じた。

今回の研修中、オーストラリアの失敗・経験に学んで欲しいと言う言葉を多くの場所で聞いた。確かに、現在のオーストラリアは、日本のはるか先を行く多文化共生社会である。しかし、一足飛びにそうなった訳ではなく、試行錯誤を繰り返しつつ現在に至ったのであり、現在もまだ多くの問題を抱えつつ、より良い社会を目指して具体的な取り組みを続けている。そう考えれば、現在我々が試行錯誤しながら日々行っていることも決して無駄ではないのであろう。同時に、ある具体的な目的を達成するために、既に効果を上げた方法があれば、それに習うことは極めて合理的なことであり、後発組である我々は恵まれているとも言える。

実際、外国人に対する情報提供を行う際にマーケティングの考え方を基本にとの提言は、大変参考になった。また、外国人コミュニケーションおよび各支援機関との連携をより一層強めて行く重要性にも改めて気付かされた。今回の研修を通して学んだ多くのことを、今後の仕事の中で是非生かして行きたいと思う。

最後に、今回の研修を実り多きものとしてくださった全ての方々にお礼を申し上げたい。まず、我々訪問団を暖かく迎え入れ、貴重な時間を割いて有益なお話を聞かせてくださった各機関・団体の皆さん。受入先関係各所との事前の連絡調整並びに滞在中の親身な対応をいただいた池田所長、甘利所長補佐をはじめとする自治体国際化協会シドニー事務所の皆さん。研修期間中、常に超一流の通訳で我々をサポートしてくださった神代さん。今回の研修の企画・運営を担当された自治体国際化協会の須磨さん。突然のピンチヒッターとして団長を務めていただいた同じく自治体国際化協会の長谷川課長。そして、共に楽しく真剣に研修に取り組んだ団員仲間の皆さん。本当にありがとうございました。



↑Ashfield Municipal Councilにて。アッシュフィールド市は、人口の40%以上が海外生まれの都市である

直うらやましくも感じた。

また、他に印象的だったのは、オーストラリアにおいては、移民・外国人が支援を受ける側として固定していないところだった。つまり、訪問先のスタッフの多くが数世代前、時には本人が移民であるにもかかわらず、当たり前のように、後から来た人たちの自立を手助けする立場にいらるのである。オーストラリアにおいては、移民の自立を促進する様々なサポートが存在し、平等な教育の機会や社会参加の道が保障されている点が日本と大きな違いを生んでいるのではないかと感じた。各コミュニティの中から有能な人材が生まれることは、そのコミュニティのみならず社会全体の発展に結び付いて行く訳で、合理的・実利的なオーストラリアの政策の一つの結実がここに見られる気もした。

通訳という仕事・存在についても改めて考えさせられた。ともすれば、医療現場でさえボランティア通訳で何とかなるだろうと